

出会いふれあい

人権擁護委員は市長が推薦し法務大臣から委嘱されたかたで、悩みや心配などを抱える皆さんの話に親身になって耳を傾け、解決の道を導き出



後列左から 比良野八郎右工門さん、池田節子さん、久保純兒さん
前列左から 森石敏枝さん、北川博正さん

仲間 GROUP

どんな悩みでもお気軽に人権擁護委員まで

人権擁護委員

人権とは、人が幸せな社会生活を送るために保障された固有の権利。この人権を守るために、人権擁護委員の皆さんは、研修会で勉強し、人権10番やホットライオンなどの電話相談や定例相談会を開き、街頭などでの啓発活動に日夜取り組んでいます。

しかし、「人権」を履き違え、「勝手にままな自己主張」をする事例が増えているといえます。高度情報化によるプライバシー侵害

すために努めてくれます。相談は無料で、内容は極秘扱い。「この難しい世の中、どんな悩みごでも相談を受けますので、気軽に定例相談などを利用してほしい」とのこと。何か困りごとができたときには、人権擁護委員さんに声をかけてみてはどうでしょうか。定例相談は、毎月第1・第3水曜日に教育会館1階和室で午前9時〜12時まで行われています。

青春ing



インターンシップで仕事人!

左から
平 尚子さん (16) = 郡 町
道 場 千鶴美さん (16) = 芳野町
木 下 千鶴さん (16) = 滝波町

今回の青春ingは、勝山市役所 秘書・広報課にインターンシップ実習生として来られた、勝山南高校の平尚子さんが記事の取材編集をしました。

勝山南高校では、7月9日から11日の3日間にわたり、2年生を対象にしたインターンシップ(就業体験)が行われました。その中で、図書館での体験を希望した2人に目を向けました。

道場千鶴美さんと木下千鶴さんの2人は、「将来どんな職業にしても人のためになる仕事をしたい。」そのなかでも「公共サービスを行う仕事場で役に立ちたい。」との理由で図書館を選んだそうです。

図書館では、本の修理や廃棄する雑誌の整理、カウンターでの貸し出し業務などの仕事を通じて働くことの大変さを感じたとのこと。よく貸し出しされる本は、大切に扱っても傷んでしまっ、ちぎれたり破

れたりするため、図書館職員が破損箇所にてテープを貼って修理をします。修理作業中の2人からは「汚れた本が返ってくるのもっと本を大切にしたい」と思いました。「本を直すのも特殊なテープを使うなど、工夫しながら相手への気配りも大切ということが分かりました。」と、働く人の立場での気持ちがよく分かったとのこと。

また、相手から「ありがと」と言われるのがとても嬉しくてやる気が出たなど、この体験ができてとてもよかったと話してくれました。

そんな2人は今日もどこかで経験したことを活かして頑張っているでしょう。

荒土町西ヶ原地区で にんにくの即売会を実施

荒土町西ヶ原地区では一昨年から国の中山間地域直接支払制度を利用し、寒暖が激しく雪深い栽培環境に適した青森産のにんにく「ホホワイト6片」の栽培に区民が一丸となり取り組んできました。そして、昨年の勝山うまいもん祭で、収穫されたにんにくを販売したところ、テレビ番組などによる健康志向ブームの波に乗り脚光を浴びて人気は上々でした。

そこで、同地区では、西ヶ原にんにくを世間に広めようと、7月8日の朝に、にんにく即売会を開催しました。開店前から多くの人のにんにくを買い求め、遠くは越前市からの客など1日で約170名のかたが販売会に訪れ、用意された300ネット(1ネット1,000円)は完売しました。

この即売会場では、にんにくの料理方法を知ってもらうことで需要の拡大につなげようと、「西ヶ原にんにくレシピ」や「西ヶ原にんにくの効能」を掲載したチラシを配布したり、にんにく入りのみそをぬって焼いた里芋田楽を無料配布するなどしました。

即売会には、同地区(戸数12世帯)の全世帯から地区民が参加して販売などの作業にあたることで親睦を深め、良い村おこしにつながればと地区民のかたは期待しています。



にんにくを買い求める親子づれのかた

この唄の市を企画したドレミ音楽舎の河合敬治代表は、「唄で心が通い合うことができ、嬉しいです。次は、和洋のジャンルを問わない野外イベントを考えています。」と力強いコメントでした。



ゴスペル調の美しいコーラスが高く評価された「バンビーコーラス隊」

HOT話題

歌で国際交流

「出演者は母国語以外の言葉で歌う」というルール「世界のだ自慢 in 勝山」が7月13日の夜、市民会館大ホールを会場に開催され、市内在住の外国人や市民が多数訪れました。こののだ自慢は、昨年第1回の開催で好評を博し、引き続いての開催となりました。

アメリカ人のブランドン・ライトさんは、ギターを片手に自作の歌を日本語で披露して会場から盛んな拍手を受け、「これからも大好きなソースカツ丼を作ってください」と言って、観客の笑いを誘う場面もありました。

この他にも、小学生グループによる「幸せなら手をたたこう」の英語版、国際交流員デビットの英会話教室仲間による英語の歌、勝山のゴスペル愛好グループ「ゴスペル・ウィンディ・フレンズ合唱団」による英語の歌など、16の個人やグループが歌を披露しました。

観客は、それぞれの歌が終わると惜しめない拍手を送り、会場は終始楽しくなごやかな雰囲気にも包まれていました。最後に、観客も舞台に上がり会場のみんなで、「小さな世界」の1番、



「ゴスペル・ウィンディ・フレンズ合唱団」の美しいハーモニー

2番、3番をそれぞれ日本語、英語、中国語で歌い気持ちをひとつにしてい

唄の市で年代を超えた 音楽の交流を

若者に音楽発表の場を提供しようと「唄の市in勝山城」が開催され、昼の部に、小学生から年配までの幅広い年齢層から約60人のかたが、勝山城博物館内のライブを楽しみました。

一般参加ライブでは、勝山高等学校の生徒たちでつくるバンドグループ「White Runet」の2年生女子生徒によるツインボーカルの美しいハーモニーが会場を魅了し、応援で駆けつけた友達からの声援や盛んな拍手が送られました。そのボーカルを務めた酒井里奈さんと吉田菜さんは、「たいへん緊張したけれど、みんなの拍手で気分が乗り、雰囲気盛り上がり過ぎて嬉しかったです。」と歌い終えての感想でした。

ふるさとの唄コンテストでは、自作自演部門と歌詞部門に分かれて自慢の作品が披露され、郷土勝山に寄せる思いが詰まった歌詞や曲に、会場はしんみりとした雰囲気にも包まれました。

同コンテストの最優秀大賞に輝いたのは、三室小児童による「バンビーコーラス隊」。また、最優秀作曲賞に長坂裕之さん、最優秀作詞賞に嶋田奈美子さんが選ばれました。